

2016年2月24日

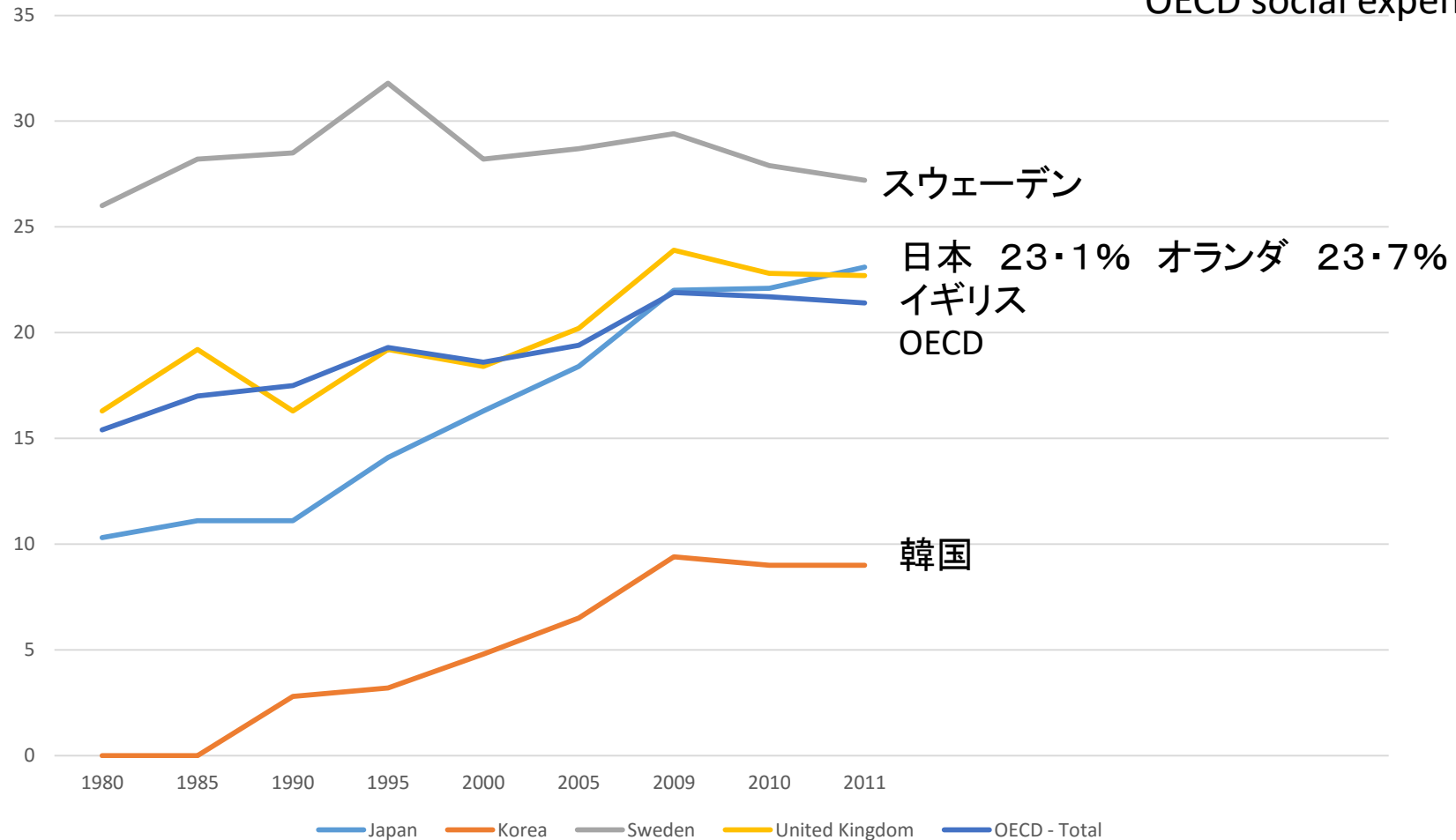
## 「提言シンポ」発言資料



宮本太郎(中央大学)

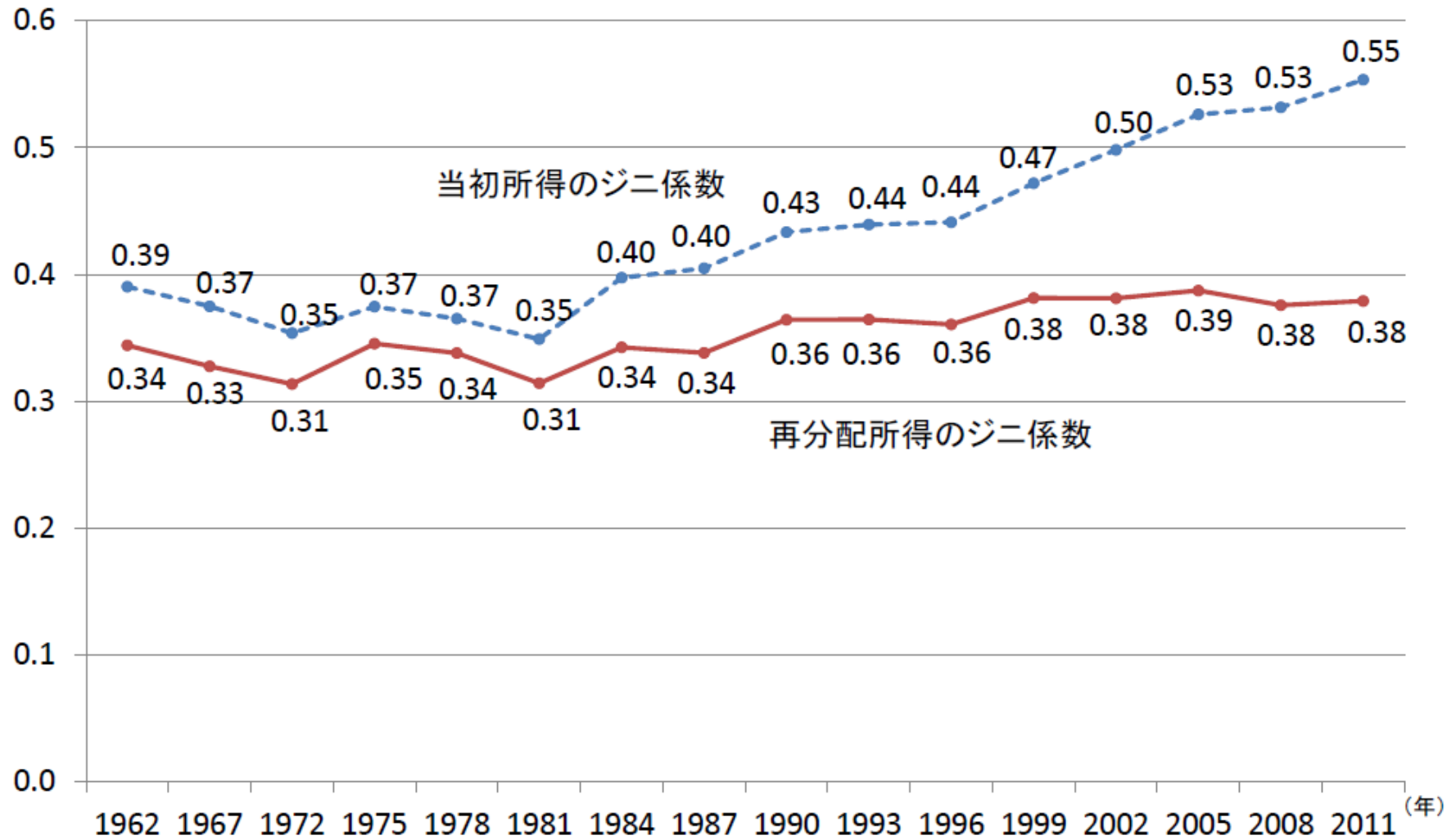
# 1 社会保障支出は増大 しかし困窮問題は依然深刻

OECD social expenditure database



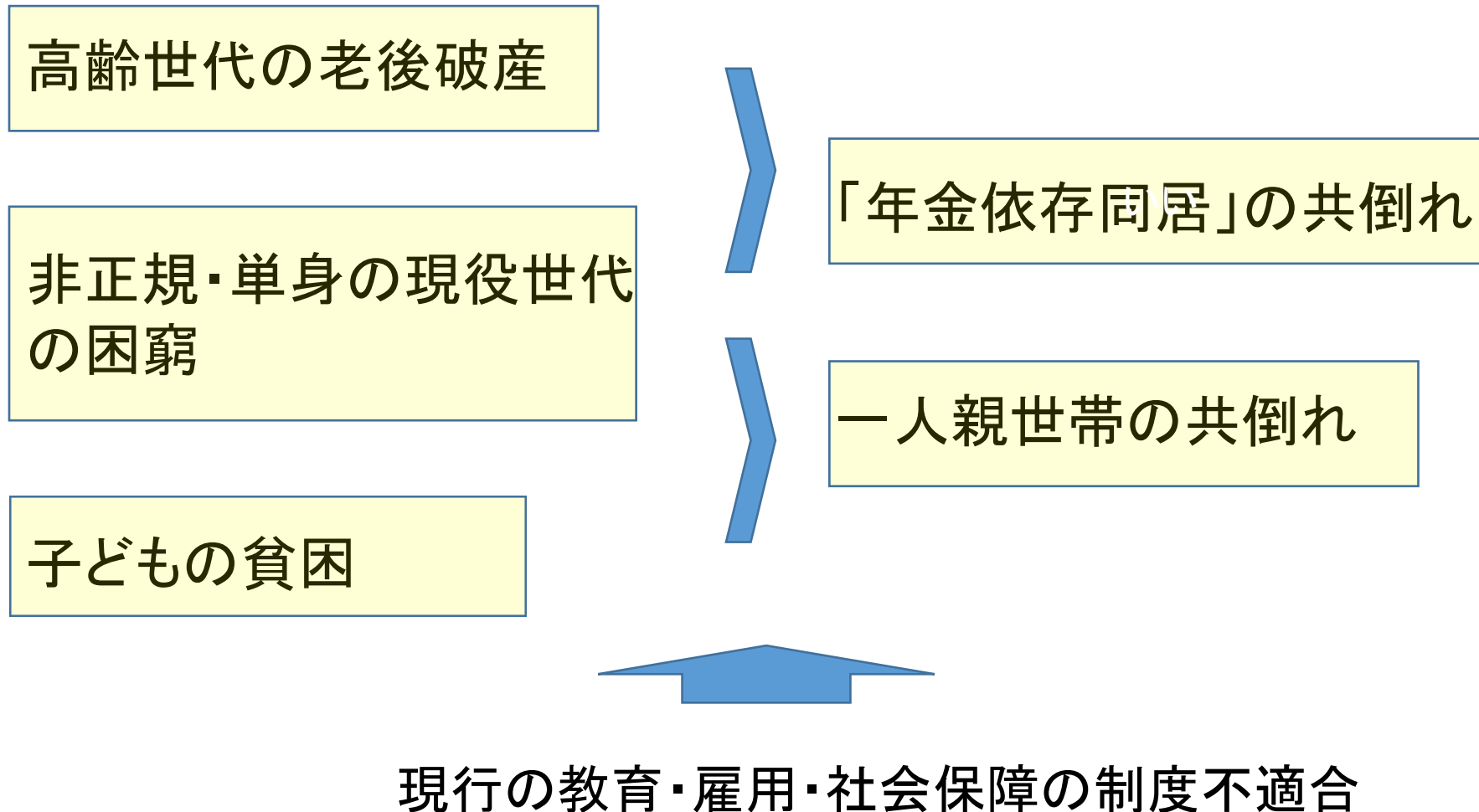
子どもの貧困率(ユニセフ 2013)	日本	14.9	オランダ	5.9
女性の貧困率( Gornick & Jantti )	日本	12.6	オランダ	4.6
高齢者の貧困率(OECD 2010)	日本	19.4	オランダ	1.4

## 2 勤労所得(当初所得)での落ち込みを社会保障がカバーしきれない



(出典)所得再分配調査(厚生労働省)

### 3 3つの困窮 共倒れの拡大



#### 4 かつての「貧乏」と今日の「困窮」

\*「連帯」ではなく、「孤立」

\*「希望」ではなく、「諦観」

\*「活力」ではなく、「停滞」

孤立が困窮(感)を逆に強める 「頼れる人がいない」男性独居 24・4% 女性独居 9・2% 「家計苦しい」男性独居 32・3% 女性独居 23・9% (内閣府 2009年)

## 5 3つの困窮の進行で地域が持続困難に

### 地域持続の困難

若年女性の首都圏流入・困窮化



高齢化と現役世代減少  
後期高齢者の都市部集中



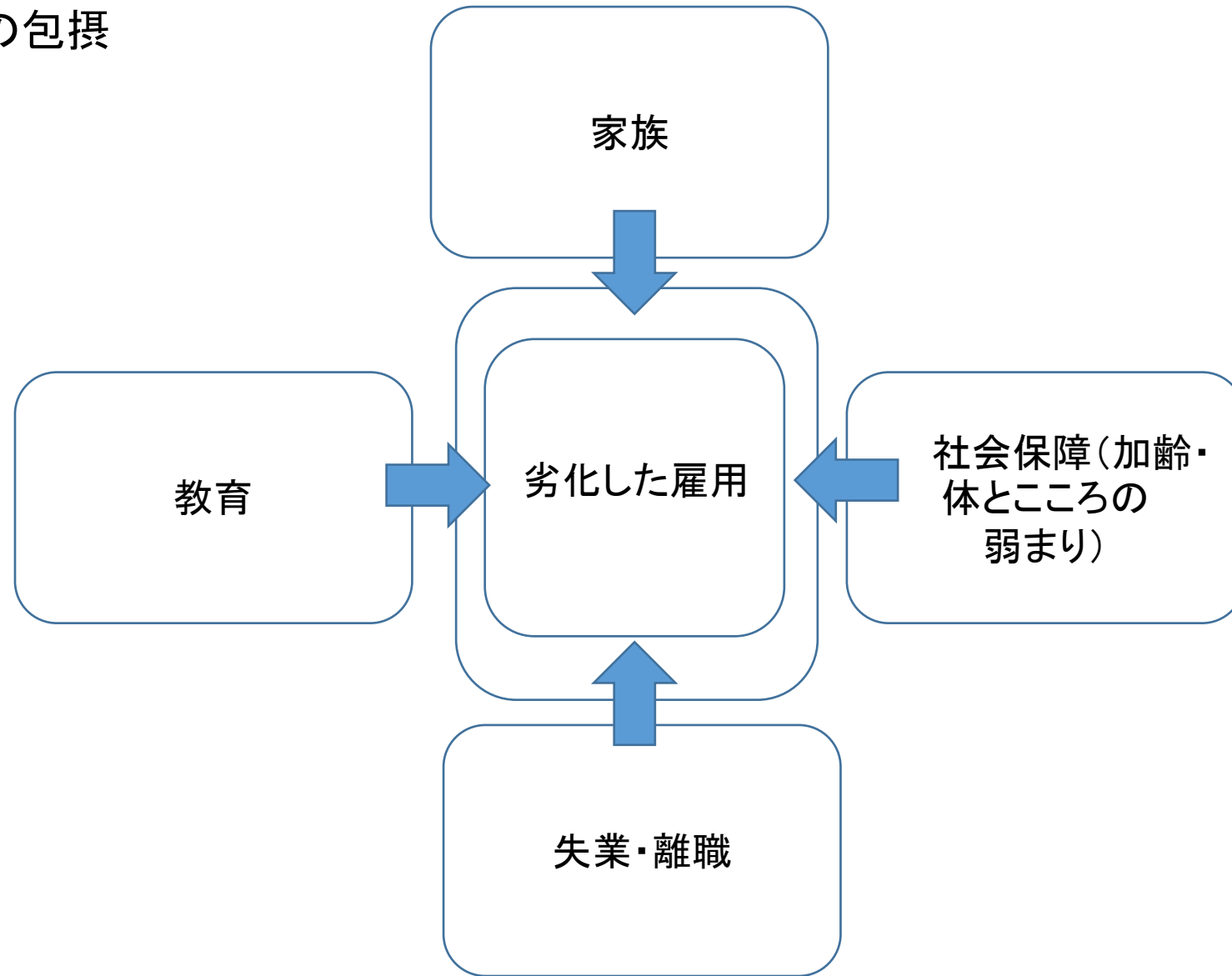
女性・現役世代  
・子どもの困窮



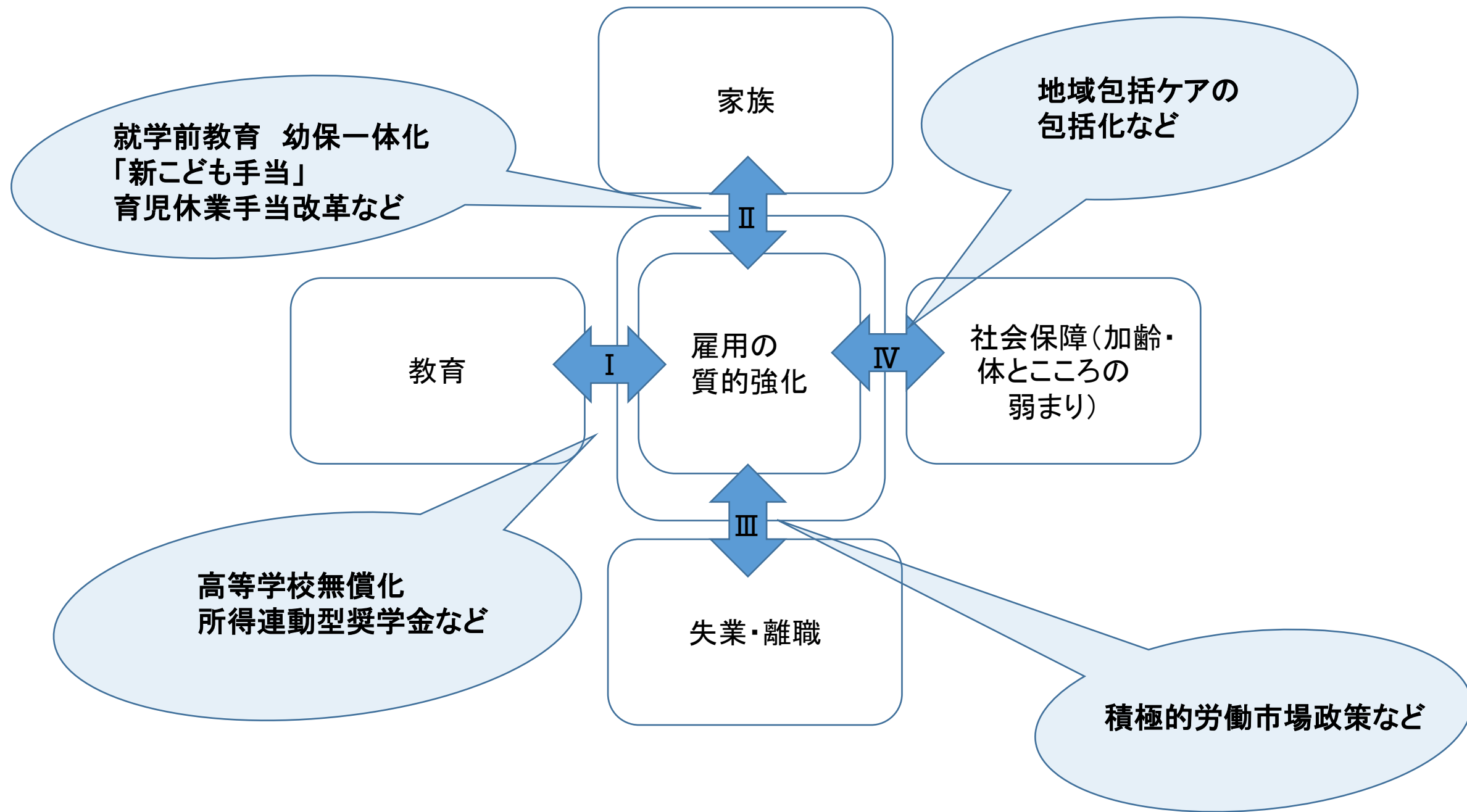
高齢化の新段階

「支える側」が力を発揮できない

## 6 劣化した雇用での総活躍 「仕事部屋」への包摂



## 7 「4LDK社会」への参加と包摂





## 8 リベラルか保守か？

	旧来型の政治対抗	共生社会ビジョン
前提	「支える側」と「支えられる側」という二分法	二分法の終わり
政治的立場	「支える側」による成長 （新自由主義） 「支えられる側」を保護 （旧リベラル） 伝統的「支え合い」を保持 （保守主義）	「支え合い」を「支える」 （保守の要素とリベラル の要素の統合）
経済成長	「支える側」への動員	雇用を含めた「支え合い」を質的に高めて活力引き出す